

シリーズ「本にまつわる、先輩からのメッセージ」第3回

「尾木直樹ふるさと館」館長 ^{みねしま} 峯島 ^{よしえ} 良枝さん（第18期）



始まりは、習志野高校図書館へ送られてきた、2015年2月23日付『滋賀中日新聞』である。「あなたたちの先輩に、こんな人もいるということを知ってほしい。そして、広い視野で世のなかをみてほしい。」と添え書きがあった。

習志野市を離れて、遠く関西の滋賀県、東海道新幹線で名の知れた「米原」（雪で新幹線が止まるときは、この近辺に雪が降った時だ）に住んでいるのはどうしてなのだろうかと、習高OGに会ってみたくなった。そのOGが**峯島良枝**さんだ。

滋賀県^{まいばら}米原市へ

滋賀中日新聞によると、峯島さんは漫画家になりたいくて、中学生の時、あこがれの手塚治虫へ弟子入り希望の手紙を書いたが、「社会的な知識を身に着けるために高校だけは出ておきなさい。」という返事をもらったという。また、大学は大阪芸術大学工芸科で铸造を習い、奈良県で仏像を造っていたそうだ。卒業後は習志野へは帰らず、今や「尾木直樹ふるさと館」の館長を務めているという。「?」「!」がいくつも並んだ。どんな習高OGなのだろう。

習高在校生は、卒業生から何かを学ぶことができるはず。まずは何をおいてもお話を伺おうと、2015年の春、早咲きの桜が咲き梅の花の残っている時期に、「尾木直樹ふるさと館」にお尋ねした。

編集コメント：尾木直樹氏は、教育評論家。また、法政大学教職課程センター長で、教授。「尾木ママ」が愛称。



今シリーズ「本にまつわる、先輩からのメッセージ」はここから始まった

にこやかに迎え入れてくださった峯島さんにお会いすると、すぐに旧知の間柄と思わせてくれた。習志野高校在学時のお話がとても面白く、次から次へと、今私たちが知っているお名前や旧先生方のお名前が出てくる。それはそれは、当時を彷彿とさせるお話をしてくださった。生徒たちの当時の様子が、リアリティーを持って感じられた。エネルギーもりもりで、切磋琢磨している高校生が見えたのだ。

これは、在校生・現在の教職員に伝えねばならない。どうにかして、先輩たちの在学中のお話を伝えるすべは無ないものかと、考えるようになった。それが、だんだんと煮詰まっていって、このシリーズへとつながったのだ。ここに、原点がある。そこで、シリーズの編集コンセプトに沿ってもっと詳しいお話を伺おうと、約1年後、再度「尾木直樹ふるさと館」にお尋ねした。

下記は、先輩への「本にまつわるアンケート」回答です。



「尾木直樹ふるさと館」入口

Q. 本校在籍時についてお尋ねいたします。

※高校生時代によく読んでいた本のジャンルを教えてください。

外国作品の推理小説や、同じく翻訳ものの歴史小説をよく読んでいました。また、ファンタジーですが、当時は日本の作品がほとんどなかったので、翻訳をよく読んでいたと思います。でも、あまりよい図書館利用者ではなかったと思います。当時の美術部は、吉川猛先生のもと、年に2、3回合宿を行うような部活動をしていました。合宿中土曜日には（土曜日がありました。）、近くの「マルサン食堂」で夕食をとったりもしていました。もっとも運動部も、理科系が強かった文科系の部活も、部活に熱中しすぎて、現在同様図書館へはあまり通わなかったのです。

実は、『みどりのゆび』（モーリス・ドリュオン作）、これも外国文学ですが、期限切れでお借りしたままになっています。

編集コメント：除籍本一覧の中に『みどりのゆび』はありませんでした。除籍本を記入していない時期も一定期間ありますが、もしかしたら、中学生の時かと思われます。

※当時の図書館についておぼえていること、エピソードなどを教えてください。

津田沼から習志野へ引っ越した当時でしたので、きれいで、使いやすい図書館のイメージが強いですね。図書館では、美術本をよくお借りしていました。教材に関するものですね。それと、当時、「房総自然の会」という同好会があり、房総自然博物館（NPO「房総自然博

物館」として活躍後、2013年3月認可取り消しとなった。建物は現在、廃屋）での千葉県植物研究会に、理科の岩田好宏先生が連れてってくださったりしました。私はイラストが描けたので、そのために植物図鑑などもお借りしました。

※当時の習高図書館について、今振り返って思うことを書いてください。

当時読んでいた本は、図書館の本がほとんどでした。大学へ行ってからも、学校図書がほとんどでした。

Q. 大学・社会人になってからの読書についてお尋ねいたします。

※それでは、大学以降のことをお聞きします。読書について環境や意識に変化はありましたか？

はい。

※変化とはどういうものですか？

大学時代は、教授が実践を大切にする方だったので、鑄造科ということもあり家内鑄造所へ



カレンダーになった峯島さんの絵

アルバイトにも行っていましたから、忙しかったですね。本を読む機会が減りました。

その後社会人になってから、中国へ一年間留学して、仏像の勉強もしたんですよ。しかし、鋳物は当時、銅の仏像を作る時まだヒ素を含むヒ素銅や錫（錫）を含んだ鋳石を使ったので、手荒れがひどかったです。

鋳物から、アクリルとかプラスチック樹脂製のマネキンなどの像を作ったりしましたが、その後、イタリアへも留学を同じく一年間しました。いろいろ、知識・情報を得るのに本は読みました。本は文庫本を手取るようになりました。エッセイ・小説などの本に目が向けられるようになって、その手の本が多かったと思います。

Q. 現在についてお尋ねいたします。

※読書が職業に与える影響には、どんなものがあると思いますか？

ちょっと抽象的かもしれませんが、読書は夢への広がり、また、文字から実社会への現実感などを考察できます。頭の中の整理ができます。文字は絵を想像することができます。想像力を掻き立てることができるのです。

※現在の職業のスキルアップには、どんなことが大切だと思いますか？ どのような事をなさっていますか？

高校で美術を教えたり、子どもたちの絵画教室の先生をしたりしていますが、作家として、個展も定期的に開いたりしています。展覧会に足を運んだり、自身の個展を開催するように心掛けています。絵を通じ、いろいろな作家の作品を見て、自身の作品作りが大切だと思うからです。そして、自分の現在の生活に追われることが多い近頃を打破するために、絵の発表は必要だと思っています。

※現在よく読む本のジャンルを教えてください。理由は？

先ほど述べた、作家のエッセイはよく読んでいます。

また、画集なども現在よく読みます。作家がどのような経緯があってその作品を仕上げていているか参考にしています。

※スランプに陥った時、何を考えて何をしましたか？ 本以外でお答えください。

よく眠るようにしています。とにかく眠っ

て起きると、違う生活が見えるというように感じて、切り替えができるように思います。

※上記の時、支えになった本はありましたか？

尾木ママの本を何冊か読みました。例えば、『尾木ママの「凹まない」生き方論』（★159 頁 尾木直樹著 主婦と生活社）です。

※「尾木直樹ふるさと館」の館長さんになった、いきさつを教えてください。

滋賀県東近江市に「ことうへムスロイド村」という芸術家が集団で居住するところがあります。

絵画・木工・彫刻工房など、創作活動をしています。私もここに入れていただいて、自分の芸術の追及をしました。時を経て離村することとなり、米原市に居を構えようとしたときに知り合ったのが、尾木直樹さんのご両親でした。大変良くしてくださって、ふるさと館創設メンバーにも入れていただいて、その流れで、館長を引き受けたんですよ。

直樹青年は、高校生の時大変な読書家で、その時のほんの一部が、ふるさと館へ移設されていて借り出せるようになっています。難しい本も読んでるのがわかります。TVなどに出るとき胸に付けているブローチの一部も移設されて飾られています。帰郷の時にお会いすることがあります。法政



大学の教授をなさっているのですが、昨年あった長野スキーバス事故のことに心を痛められていて、遺族のサポートにもあたられています。

Q. 現在の習高生がより自分自身を向上するために何ができるとおもいますか？

また、図書館はそのために何をすべきだと思いますか？

※人との出会い同様、本との出会いも大切と考えます。習高生に薦めるジャンルはありますか？

理由は？

有名人のエッセイがいいと思います。エッセイは、自分と重複する点があり、読み応えがありますから。

※習高生が自己実現のために、今しなければならぬことはなんだと考えますか？

3つだと思います。

①自分の好きな本を手にとって読む。(同様なことがないか、知ってプランを立てる)

②できることから始める。(行動する)

③できると思ったことが、「できない」時は途中と虽っても、手をおいてみる。(再度見直す、そしてGO！)

※習志野市の教育基本目標に「豊かな人間性と優れた創造性を育む 人づくり」があります。

習高図書館でできることはどんなことだと思いますか？

「なりたいものを頭でイメージする力」を養えるよう、お手伝いをしてください。少しずつやれることをやれば、いつかきっとものになります。文武両道は実現できます。



「尾木直樹ふるさと館」、内部の様子

Q. あなたにとって、読書とは、本とはどういう存在ですか？

本は、イメージを膨らませてくれる大切な存在です。デジタルの時代ですが、手に取る本の重さは心の重さにつながります。手に取ることで本から得られる知識は、時間や場所を超えても、本や同じ本を読んでいる人と共有ができるはずです。

Q. なんでも結構です。今、考えていることや、感じていることをお書きください。

あきらめないことが大切だと思います。何かをあきらめるということは、そこから大きな穴になり、全てをあきらめてしまう要素になりそうだと思います。



Q. 後輩である習高生にメッセージをお書きください。

「なりたいこと」、「やりたいこと」のイメージを強く持って、日々、頭の中でその目標を言い続けていきましょう！

Q. 今、一番オススメの本をお書きください。

『ピンチを「味方にする」スイッチ』(★159 枚 尾木直樹著 主婦と生活社)、これです。

ありがとうございました。



展覧会のために書いた「伊吹山の四季」連作